

黒澤徹の酔い語り



地域おこし協力隊の黒澤です。最近ふと思ったことを書いてみます（長文になってしまったので前半＆後半の2回で掲載します）。今回は後半。

価値観の多様化により、生活に求める優先事項も千差万別となりました。憧れの田舎暮らしも随分身近になりました。以前は特定の富裕層にのみ可能だった2拠点居住も手軽になっています。東京へ通勤するにしても交通費が高くつく！というなら、現在割高感の否めない高速バスの半額程度を補助する仕組みを検討するとか。副業で鋸南町に農地を借り、ビギナーでも気軽に農業を始められる仕組み作り（農業法人に勤務等）とか、空家利用がなかなか進まない現状であれば思い切った比較的若い単身者や小さな子供を含む若い家族外国人などが借りやすい家賃設定のアパート建設（宅地造成）をして、年数を限定して家賃補助をしてじっくり人間関係を作りながらその後の住まいを探してもらうとか（あ、これって3年期間の「地域おこし協力隊」

の制度に近い？という意味では鋸南版地域おこし協力隊制度？）。

このように、交通機関を利用して鋸南町にいながらにして首都圏での仕事ができ、お試し移住が可能な負担の大きくない賃貸住宅が確保できれば、地域との関わりを含む社会活動（共助）や文化活動（レジャーや祭礼とか）、新しい仕事（就農やネット系ビジネスとか）へのチャレンジもしやすくなって結果人口増と地域振興が進むというストーリーは描けないだろうか。（それと忘れてはいけないのが子育て支援と教育ですがこれについては別の機会に。）

そんな若い移住者が副業からスタートする農業従事者になったり、猪や鹿の被害から地域を守る獣害対策の担い手になったり、田舎暮らしの魅力を発信するインフルエンサー（世間に与える影響力が大きい行動を行う人物のこと）になったりと。言い古された発想かもしれませんが、地域事情を知らない無責任な発言かもしれない。私もはじめて鋸南町に来た時から、地域の印象も変わりましたし、地域の皆さまとお付き合いをさせ

ていただきながら、それまでの思いや考え方も変化しました。時代や本人の置かれた立場の変化に伴い、発想ややり方も変えていく必要があるとも日頃思っています。言葉で言うほど簡単なことではないのも実感しています。発想はあっても実現に向けて前に進める実行力が問われるのでしょうか。

ふと、「地域おこし協力隊」の成果ってなんだろうと思うことがあります。

そもそも誰が「地域おこし」をしたいと思っているのだろうか？ひよっとして役場の方以外にはそれほど「地域おこし」なんて望まれていないのではないのか？私の独りよがりだったのかもしれない。「協力隊」って、そもそも何に協力するんだろう？とか。現在の私は、「有害鳥獣対策」担当なので任務は分かりやすいのですが、「地域おこし協力隊」って全国で様々な活動をしているわけで、みんなはどんな心境で過ごしているのかなあ、などと思うこともあります。

完。



少々ナイーブな文章になりましたが、基本的に皆さまのおかげ様で毎日を元気に楽しく過ごしています（笑）。役場の町報にはちょっとかけない文章として今回はあえて書いてみました。次回は、もう少し楽しい話題を（笑）。

意見交換会にご参加いただきありがとうございました！

4月26日に開催した「保田駅前拠点」の意見交換会にご参加いただいた方々ありがとうございました。1部と2部、町内外様々な方にお越しいただき、色々な意見を聞かせていただきました。また参加者同士で新たなつながりも生まれた気がします。

この会でいただいた意見を参考にさせてもらい、この保田駅前でも新しいことを始めていきたいと思いますのでどうぞこれからもよろしく願います。情報は随時Facebook等で更新します。

Facebook



発行元 鋸南町地域おこし協力隊
鋸南町保田66-1
発行日 2019年5月20日
編集・
デザイン 室井翼（移住定住担当）



5
D A P P E

うっちゃられ、

シテイライフ。

地域おこし協力隊の
ごだっぺ
しんがら



スカッシュの篠宮尊くんがジュニア大会で優勝!!

～鋸南で強豪選手が生まれる理由は?～

千葉県鋸南町在住のスカッシュ選手、篠宮尊くん(12)が、3月28日に行われた「第23回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会」で優勝しました。篠宮選手は同町の鋸南クロススポーツ「スカッシュチーム」に所属。このチームはこれまで小学生部門で全日本の優勝選手を輩出していることでも知られています。鋸南町でなぜ強豪選手が誕生するのか?取材しました。



悔しさバネにしっかりと練習

午後6時。鋸南町のスポーツ施設「サンセットブリーズ保田」を訪れると、選手がラケットで、ボールを壁にぶつけていました。参加者は小学校1年生から中高年まで幅広く所属選手は約50人。篠宮尊選手の姿も、そこにありました。ボールに合わせて前後左右に動き、ラケットでボールを瞬時に打っていきます。「篠宮くんはラケットセンスがあるんです。小柄なので運動能力は十分ではないけれど、ボールのコントロールがよいので将来、有望だと思います」と松澤彩香コーチは話します。篠宮選手は小学校1年生からスカッシュを始めました。「全日本で優勝するために頑張ってきました。これまで優勝できなく、その悔しさがあつてしっかりと練習しました」と語ります。「勝ちたい」という思いと強いメンタルで優勝したのは言うまでもないことでしょう。



毎日通える充実した施設

鋸南クロススポーツの「スカッシュチーム」が強豪選手を輩出する背景には、実力のあるコーチと充実した施設の存在もあります。松澤コーチは全国3位の記録を保持。伊藤鉄平コーチとともに、このスポーツ施設「サンセットブリーズ保田」で選手の育成に携わっています。同施設にはスカッシュのコートが3面あり、全国的にも有数の施設。オーナーは、日本代表選手だった丹桢倫さんで、6年前にこのスカッシュスクールを作りました。「子供が毎日通えて練習できる点ではこの施設は日本一と言っても過言ではない」と松澤コーチは話します。今回、全日本大会で優勝した篠宮選手は、ほとんど毎日練習してきました。「いろいろな人に出会えるから、練習が楽しい。将来は世界で活躍する選手になりたい」と話します。練習や試合を通じて様々な人と交わることができるのも、スポーツの醍醐味。楽しみながら、初心者でもコーチの指導のもと成長できることが、優れた選手を生み出していく理由なのかもしれません。篠宮選手はこの4月で中学生になったばかり。伊藤コーチは「篠宮くんは相手のスピードを殺し、自分のペースにもちこむのがうまい。スカッシュを好きで、これからも続けていけるようになるのが私たち大人の役割」と話しています。

? スカッシュとは

ロンドンで生まれたインドアラケットスポーツ。2名(ダブルスは4名)で4面を壁で囲まれたコートの中で、小さい、中が空洞のゴムボールを交互に打ち合います。



私の主な仕事は、観光に限らず、鋸南町の魅力をたくさんの人に伝えていくことです。これからも、みなさまのご協力をいただきながら、町の外や内の人に向けて、素敵な人やおいしいものの情報を、弊誌「DAPPE」やFacebookなどで発信していきます。



写真を通して伝えたいこと

小学生のころ、放課後には裏山にすぐ遊びに行けるような自然が身近にある環境にいました。山で秘密基地を作ったり生き物と触れ合ったり、キャンプをしたり。それが当たり前の生活でした。しかし卒業と同時に横浜に引越し、環境が変わりました。自然が無いわけではないですが、山はないですし、コンクリートで舗装されていない地面を踏みしめることができなかつたりと違和感を覚えていました。そしていつの間にか、多くはない自然を探して日々を過ごしていました。

大学生になり、自然を撮りたくて一眼レフカメラを買いました。毎日のように写真を撮り続けるうちに自分の撮りたいものがわかってきました。壮大な自然の景色もすごく好きですが、日常の中にある、自然を感じられる瞬間が自分にとって大切なものであり、写真を通して誰かに伝えたいことでもあると。それは目で見ているものだけではなく、空気の中においであったり、音や肌で感じるものだったり、つまりその場その瞬間の「空気感」を切り取りたいという思いでした。夕日に照らされた部屋の壁、冬の空気のおい、光のあたたかさ、空気のやさしさと寂しさ、そんな空気感に包まれるとき、人に、自然にやさしくありたい、大切にできる人間でありたいと思います。そう思わせてくれる身近な自然が、とてもかけがえのなく愛おしい。そういう気持ちで写真を撮っています。

(移住定住担当) 室井翼

